

## 第2回 京丹後市学校再配置検討委員会 会議録

- 1 開催日時 平成19年9月20日(木) 午後8時00分～午後9時27分
- 2 開催場所 京丹後市役所 峰山庁舎 2階 201.202.203会議室
- 3 出席者 高野委員長、大木副委員長、荒田委員、高田委員、松本委員、小倉委員  
坪倉委員、板垣委員、小松委員、増田委員、本城委員、小牧委員  
平松委員、河田委員、谷委員、野木委員、平林委員、藤原委員、  
西山委員、沼倉委員 委員20人  
(欠席者)欠席者なし  
(事務局)引野教育長、水野教育次長、森本教育理事  
粟倉教育総務課長、松井学校教育課長、山副社会教育課長  
吉田文化財保護課長、米田総括指導主事  
数多教育総務課長補佐、坪倉教育総務課主任 事務局10人  
(事務局欠席者)欠席者なし

### 4 議 題

- ・ 会議録について
- ・ 各分科会の検討状況について
- ・ 学校再配置の検討について
- ・ 第1回中間報告について

### 5 公開又は非公開の別

公開

### 6 傍聴人の数

0人

### 7 要 旨

《議事経緯》

#### (1) 開会

教育次長

皆さんこんばんは。定刻になりましたのでただ今から第2回京丹後市学校再配置検討委員会を開会させていただきます。

最初に、開会のご挨拶を高野委員長様お願い致します。

委員長

皆さんこんばんは。この夏は、ことのほか暑い日が続いております。本日は第2回の検討委員会に皆さんお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、第1回の7月12日以降、各6町の分科会におきまして大変熱心に分科会の開催を願っております。メモを読ませていただいております。皆さん熱心な方がおられまして立派な分科会が開催されている中、大変感謝をしている所でございます。

本日は、式次第にありますように各分科会で検討されたことの報告をいただき、(3)の学校再配置の検討についてを中心に皆さん方から意見をいただきたいと思っておりますので、闊達なご意見をいただきまして意義ある会議にしたいと思っておりますので皆さんどうぞよろしくお願い致します。

教育次長

ありがとうございました。

それでは続きまして引野教育長からご挨拶を申し上げます。

教育長

皆さんこんばんは。大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。今日までのあらすじを報告をさせていただきながらご挨拶に代えさせていただこうと思っております。

第1回の会議を開いていただきましてから、いろいろあちこちからご意見をいただいております。特に議会の方でも一般質問の中で、どうして委員を選んだのかとか、誰の責任で選んだのかというようなご質問もあり、答えさせていただいてきておる経過がありますが、検討分科会、非常にうまく滑り出しをしていただいたのではないかなというふうに思っております。それぞれ6町がもう既に2回を終わっていただいている所や、今、3回目にかかろうかというような所もあるようですけれども、いろいろご意見をいただきながら私も叱られております。教育委員会が原案を出さんかと言って、随分あちこちからもお叱りを受けておりますが、それは致しませんと、原案を作るためのご意見をいただいている段階ですと申し上げておりますので、そういった意味で分科会での討議を大事にして行きたいというふうに思っております。

中には、いろんな資料を求めてきていただく分科会もありまして、出来るだけ求められた資料については出させていただいて、話し合いの材料にしようと思っておりますし、私が聞いておりますに現在のPTAの会合なんかでも、この検討委員会の様子が話されて、

検討委員さんが、「君らあどう思うだ。」というようなことでご意見をいただいているというように声も聞いておりますので、非常に有難いなと思っております。

当初から分科会を間をあけて開催する趣旨はそこでありましたので、個人のご意見も大事にしながら、周りの意見もいただいて反映をさせていただこうということでありましたので、そういった意味ではかなり幅広くご意見をいただいておりますのではないかとこのように思っております。

また、中にはなかなか意見を絞ることが大変だというご意見もいただいておりますが、当初申しましたように意見を 1 つにまとめていただくということではありませんので、もう少しフランクに話し合いをしていただいたらどうですか、というようなことをお返しをしておる訳でございます。

分科会の様子も最初申し上げましたように、誰が何を言ったというようなことが残らないように、ご意見を全部整理をさせていただくにしても、誰が発言された中身かということは公開しないというような形で会議も公開しておりませんが、フリーなトークンをしていただくという趣旨でありますということでご理解をいただいておりますけれども、全市民にまで周知出来ておりませんので、そういった疑問はまだまだ続くことだろうというふうに思っておりますけれども、そういった趣旨も広めていただきながらこの検討委員会の中身を充実するように私達事務方としましても努力をさせていただこうと思っております。

今晚は貴重な時間でございますので、今日までの分科会の様子も見聞きしていただきながらご協議をしていただこうと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

教育次長

ご挨拶をいただきましたのでこの後、議事に入らせていただきたいと思いますと思いますが、今晚の会議の予定でございますが、概ね 9 時 30 分を目途に終了させていただきたいと思っておりますのでご了承いただきたいと思います。

それではこの後の議事進行は高野委員長様、よろしくお願い致します。

委員長

それではお手元の次第によりまして進めさせていただきます。

はじめに議事（1）の会議録についてを議題とさせていただきます。事務局より説明をお願いします。

教育総務課長

失礼致します。それでは事務局より会議録について、(別紙)会議録について、(情報の公開について)を次第書の後ろに付けさせていただいておりますので、それを読ませていただきたいと思います。それまでに今日お手元に会議資料として何枚か置かせていただいておりますので、資料の確認をお願いします。次第書、その後ろに今の(別紙)会議録について、その後ろに第3回の学校再配置検討分科会会議日時、その次に京丹後市学校再配置計画策定組織構成表、次に資料3-1-1、児童生徒(園児)数、これは丹後教育局管内市外分ということで、京丹後市の分は既に配らせていただいております3-1がありますので、その次に綴じていただきたいと思います。その次の資料3-3-1、これは京丹後市出生数ということでございますので、これも最初に配らせていただいております資料3-3がありますので、その次に綴じていただきたいと思います。それから1番後ろに、本日9月20日配付ということで、各分科会での意見資料、これは皆さんに資料ということで今日の会議の通知の時に分科会での意見を入れさせていただいておりましたが、その後開催されました第2回の大宮町と第3回の網野町の意見を載せさせていただいております。

資料につきましてお手元に皆さん揃っておりますでしょうか。

それでは別紙会議録についてということで読ませていただきます。

会議録について、(情報の公開について)1京丹後市学校再配置検討委員会の会議録は、検討委員会開催の都度作成し、インターネットの市のホームページ等で市民に公開して行く。

2、会議録については、毎回、会議録署名委員2人の指名を行い、会議録調整後に署名を求める。第1回は7月12日にお世話になりましたが、正副委員長のための署名。第2回からは、委員長と会議録署名委員2人で行う。

3、検討委員会の委員名簿については、既に市のホームページに公開しています。当検討委員会において最終的に答申を出していただく訳ですが、どのような方々により検討されたかについては、市民に公開すべきと判断させていただきました。

ただし会議録の公開につきましては、発言者については「委員」という表示で、個人が特定できない方法で開示して行きます。

なお、検討委員会で非公開が適当であると認めた場合のみ、非公開とさせていただきます。

ということで、この検討委員会につきましては設置要綱があるのみですので、会議規則

とかその他いろんな規則を定めておりませんので、本日の会議で確認、承認していただきまして、今後はこのようなことでお世話になれたらと思っておりますのでよろしく願います。

委員長

それでは、今事務局の方から説明のありました会議録について、ご意見がございましたらよろしく願います。

特にございませんか。

無いようでございますので、特になければ挙手により採決としたいと思いますので、挙手をお願いします。

(全員挙手)

はい、ありがとうございます。挙手全員でございますので、提案どおりとさせていただきます。

それでは早速でございますが、本日の会議録の署名委員の指名をさせていただきます。

名簿順位 2 番荒田ケイさん、名簿順位 3 番高田一さんを指名致します。よろしく願います。

委員長

続きまして、各分科会の検討状況についてを議題とさせていただきます。各分科会での意見をご覧いただきたいと思っております。本日第 2 回大宮町分科会での意見と第 3 回網野町分科会での意見をお手元に配付させていただいております。

各分科会での報告を 5 分以内で順次願います。

まず最初に、峰山町から願います。

委員

失礼します。峰山町の報告をさせていただきます。第 1 回目は 7 月の 12 日、第 2 回目は出来るだけ早くした方が良くはないかということで、7 月 20 日にさせていただきました。第 3 回につきましては、この検討委員会の内容を持ち帰った形の中で、来週 27 日に予定をしております。

まず、第 2 回目を開催させていただきました中で、峰山という地域の状況についての説明を事務局からしていただきました。そうした中である程度、どういう状況になっているのか、いろいろな質問が飛び交う中で、いろいろな意見をいただきました。

今後、人数がぐっと減って行くからどうなるんやろうとか、適正規模とはいったいど

うなんやろうか、文科省の言う基準と、実際の所のこういう基準と今後はどういう方向で走るのかという辺りのことを各学区から来られた委員の方は言うておられました。良い意見も出れば、或いは私の所はちっちゃくても良い等といろんな意見が出ていました。反対にひとつにまとめるということもないと思いましたが、いろんな意見を出していただいてそれをそのままお伝えするのが良いのかなと思ひまして、言いたい放題で語っていただきました。そうした中で大規模校だとか、耐震の問題だとか、うちの学校は本当に大丈夫なのか、耐震補強の関係もあるからそれとの関連性は無いのだろうかという質問も出てきておりました。どちらにしましても、これから少なくなっていくとすればそういう方向性で行かなければいけないのではないだろうかという認識があるように思ひます。

他町の状況が現実の所、皆さん分かりませんので、他の地域がどう動くかをされるのか、今回の検討委員会の内容を分科会に戻してほしい、それを元に第3回の検討に入りたい。ですから7月20日を終わってから2ヶ月たちましたが、その間各委員さんには夏休みもあることですから各地域で地元を下ろしていろんな意見を聞いてきてほしい、それを元に27日にまた出してほしいということで終わっていただいたというような状況でございます。

何がまとまってというような状況ではありませんが、一応皆さんにご理解をいただいて終わったような状況でございます。

委員長

ありがとうございました。それでは次に大宮町さん、お願いします。

委員

今日の会議が遅くなりましたのは、実は大宮町が9月の13日ということで2回目の分科会を持ったということで、ちょっと申し訳ないなということを思っておりますがお許しいただければと思ひます。

9月13日に大宮町分科会を致しました。まず検討委員会での様子を簡単にお話させていただきます、その中で意見を聞くという形で進めさせていただきました。

今回行いましたのは、大宮につきましては昭和55年統合したという形になっております。そういった面では6町の中で1番進んでいるといひますが、形になっておりますので取りあえずは小学校については第一小学校、第二小学校、第三小学校とそれから中学校が1つという形であります。その中で小学校につきましては、1番マンモス校であります第一小というのがあります。それから中くらいの第二小学校、第三小については極端に42

名というように少ないと、大中小と分かれておるような形でして、取りあえずは現状の把握というような形で、それぞれの学校で感じておられることを出して下さいということで、良い点、悪い点というようなことでそれぞれ出していただきました。

一々申し上げませんが、そのことをこれに書いてまとめていただいておりますので、よく見ていただいたらいいかなあと思っております。それをちょっと踏まえながら現状を聞いた状況の中ですぐには出るとは思わなかったのですが、こういう学校にしたいとか地域の特色を生かした学校というのはどういった学校でしょうかというようなお話を聞かせていただいた所です。それにつきましてもいろいろと意見を出していただきましたので、詳細はまとめていただいておりますのでご覧いただければと思いますが、ちょっと印象的だったのは、子供同士は簡単に友達になれるんですけども、逆に大人に村意識と申しますか、そういうのが強く残ってしまっていて、地域を残すための考え方を考えていかないと難しいものがあるかなと思えます。

それからもう1つは、これはまだまだ先の話で今の現状では合わないというふうに思いますが、現状で大宮町内1小学校、1中学校というのはどうかと思うが、20年先、30年先の町域を超えた再配置を考えるのであれば1つの学校というのも良いのではないかと、これはまだまだ先の話で、子どもの数が何ぼでも少なくなるということがデータ的にかなり出てきておりますので、先走りといえますかそういうことを感じておられる親御さんもおられるようでございます。

3回目は10月25日に大宮庁舎で20時から開催する予定にしております。以上です。

委員長

ありがとうございました。それでは網野町さん、お願いします。

委員

網野町の方は、資料を見ていただいたら分かるように今3回目の分科会を終了したというような状況ですけれども、網野町は中学校が2つ小学校が6つということで、何れにしても進めていかんなんということで、毎月1週目を基準にして会議を開催していこうということで進めております。

集まっている割には中身がなかなかまとまりませんが、ただ分科会で意見をまとめるんじゃなく、忌憚のない意見を出していただくということがありましたので、会議録の中にもうたわせていただいておりますが所どころに書いていただいておりますように、意見をまとめあげようというような所が出ると、いやいや、思いの中を出してもらったら良いで

すというふうに進めさせていただいております。

早い所こういう役が終わった方が良いのかと思いますが、その辺の中で意見を出してもらうと、やはり1番現状としては中学校の方の問題を先にして2回目も出してもらって、会議録にも出ていますが3回目につきましては中学校にポイントを絞って行きまして、その中で大規模、小規模というような考え方もあり、それからまた人数的な背景と地域の大きい小さいという問題を踏まえることも検討してもらう中で、橘中と網野中しかありませんので、山を越えてどう行くだというようなことも出てきたりして、1つ先を見れば高校になるとそれがなくなってくるという辺りも踏まえて、それから先ほど大宮さんの方が言われておりましたが、網野としてこういう学校の特色を残してほしいというようなことも含めて、こういう良い所があるのでそれを残して、網野町の良い所を残してほしいということもあり、合併がどういうふうになれば網野町の良い姿が出来るのか、あまり意見を出して行くと最終的には橘中は網野中に行かんなんのかということになり、それをやると意見が止まってしまったりするので、ちょっと今まとめずに走っている状況であります。

そんな中で、考えながら進めています。今3回目の意見まで固まっていまして、もうちょっと委員さんからばらけた意見を収集して行きたいなというような状況でございます。

また、口頭だけでなく意見の出しやすい方法も考えていまして、そういった中で2回目の各分科会の資料が回ってきましたので、丹後町、久美浜町は同じように中学校が2校ある中でこんな意見がありましたよというようなことを読ませてもらって、こういうような意見が出ているので網野としてもこんな所で検討せんなんと思うので、皆さんも考えていただいたら意見も出しやすいだろうということで出させていただいたうえで、分科会の意見として出させていただこうと思いますので、網野町の意見も読んでいただいて逆にアドバイスのものがあったり、こういうふうにしたらという物があれば私らにいただいて分科会に下ろして、その中で検討を進めたいと思います。以上です。

委員長

じゃあ、続きまして丹後町さん、お願いします。

委員

丹後町は1人ずつ意見を聞こうかということで、地域に対しての思いとか学校に対しての思いとかありますので、取りあえず皆の意見を出していただくのがいいかなと思われて1人ずつ意見を出していただき、皆かなり厳しい意見があり、小・中の枠を超えて意見を出してもらいました。その中で特に小学校で竹野小学校というのがありまして、全学年



27名という中で先生とマンツーマンで黒板も使わんと指導して、家庭教師みたいだというようにおられました。竹野小学校は3名の委員さんがおられますが、3名とも早く合併したい、とにかくもっとこういう会議を早くしてほしかった、という意見をもらいました。

それから小学校は全部で4校あるんですけど、その中の1校で宇川小学校がありまして児童がだんだん減少していく中で、人数だけにこだわらず、地域の拠点という意味で小さいからまとまるというような意見もあり、人数だけでは無いということを盛んに言われる委員さんもおられました。

中学校の委員さんも、小さいからどうのこうのでなくよくまとまっている。かえって他に無いまとまりが出てきたということで、まず統合ありきという考えをなくして、とにかく皆さんの意見を出そうということで、意見の中に書いてありますけど、丹後町は1番多いいです。皆の意見を出してもらおうと思ってそうなっております。

その中で、子どもから見た学校はどうか。そういうような意見もありました。その中で子どもは大規模校、小規模校関係なしに大規模校でもすぐに馴染めるからそういうことはあまり考えず、これからも地域のあり方として中学をどういった形でまとめて行ったら良いか、間人中、宇川中のこの2校を次回の分科会では子どもの面からと地域の面から意見を出していただいて、皆さんの意見をどんどん出していただいて考えて行きたいなと思っております。

次回は10月の16日開催します。

委員長

ありがとうございました。

それでは弥栄町さん、お願いします。

委員

弥栄町では8月3日に第2回を行い、第1回の時に配付された資料を見て各自意見を考えてきて下さいということで、第1回の意見ではもう合併もしゃあないなあという意見でしたが、第2回目の意見では半数ぐらいは今のままではいけないのかという意見が出ました。中でも野間地域では今小学生が12人か13人なんです。何年か前に中学校が弥栄中学校と合併してしまっていて、その時に中学校がなくなってしまうと小学校もなくなってしまうだろうという話も出ていて、地域で作ってきた学校なので、学校がなくなってしまうと年寄りさんらあの寄り処がなくなってしまうという意見がありました。野間は以前から複

式学級だったので、複式だからいけないとかいうのは無いと思いますという意見が野間の方からありました。

その他の意見として、少人数クラスの子はその学校の中では意見を出したり出来るが、会合とか発表する場で何百人という人の前に立つと何も意見が言えないというような意見が出まして、小学校に入ったら早くそういう輪に、クラスの中でも40人とかの中で発表したら自分の意見が活発に出せるのにとというような意見がありました。

それと、一昨年アスベストの問題で小学校が使えなかったことがありまして、弥栄庁舎を使ってスクールバスみたいな形で児童が登校したことがありまして、その時に、今徒歩で通学しているんですが、待ち合わせ場所に皆集まって行かなあかんということで、帰る時も一斉下校でして、帰る時は庁舎で集まって帰るので良いんですが、登校する時になかなか待ち合わせ時間に来ないとか、親の段取りが大変で、それが合併してスクールバスにもしなるとしたらどうなるんだろう、そういうことをどうゆうふう考えているんだろうという意見もありました。

あと、耐震強度の問題が資料としてあったんですが、A B Cランクの表が出ているがそれを補強するなり対応されると思うのですが、統廃合の検討委員会の間、これは放っておくのか、今すぐせんなん所もあるのではないかという意見も中にはありました。そういうことを踏まえて各委員さん全員でいろんな意見を集めてもらいまして、次回は10月の15日に第3回を行いたいと思います。

委員長

ありがとうございました。

それでは久美浜町さん、お願いします。

委員

久美浜は8月1日に2回目を行いまして、3回目は9月26日に予定しています。2回目の際に思ったことですが、こういうふうにまとめてくれと言われるのも困るんですけど、まとめなくても良いって言われるのも困るなあって、意見だけを聞いていて毎回終わって行くと、目的をもう少しはっきりさせていかないとした意見言うだけではどうかなと思っているのが、今の率直な意見です。

意見については、人数が少ない所多い所、どういう良さがあったり悪い所があったりするかということで、意見としては少数なら少数なりの良い所、皆が一緒にまとまって出来るとか地域でも子供が見えるとか、一人ひとりが把握出来るというそういう良さがある。

逆に少ない人数で固まってしまうので、自分の序列が出来てしまってこれ以上頑張る気にならないとか、運動で、例えばかけっこをしても僕は2番に決まるととか、マラソンだったら3番に決まるととかそういうような意見もありましたし、多いとやっぱり少ないの反対なので、そういうような良い面悪い面というのが出てくると思います。全体の意見としては、今、久美浜の特に小学生は少ないのではない行かなというような意見が出ていました。ですけど少ないからすぐ合併するというのではなくて、少なくても良い面も残しながらやっていけるような方法が良いのではないかというような意見になってきているような気がします。

また、久美浜は地域、面積が広いので、それでだと思のですが学校を再配置と言われますが、例えば中学校は、高龍中学校、久美浜中学校にしましても久美浜町の中心にあるとは言えないということで、やっぱり再配置じゃなくて新しい施設を作って中心地に、なるべく中心に近いような場所に作った方が皆の意見としてはまとまるのではないかというような意見が出てきまして、具体的には久美浜高校辺りに中学校を建ててはどうかとか、だいたいあの辺だったら良いのではないかとか、いろんな意見がありました。

保育園で高龍保育園が出来た時に、新しい所が出来たんですがあそこで良かったなという意見もあるという中で、小学校にしても幾つにするかまでの所にはいってないんですけど、合併して再配置というよりもここにあったら良いなという所にやっぱり作るべきだという意見がありました。

次回からは、そうはいつでも意見を出してもらっただけでも意見がだんだん出なくなるので、中学校をどの辺に持って行ったら良いかとか、中学校をどうしたら良いかということを考えていこうかというようなことで進めさせていただこうかなと思っております。以上です。

委員長

ありがとうございました。

それでは次第書に従いまして、次に(3)の学校再配置の検討についてを議題とさせていただきます。座長の状況報告を踏まえながら、学識経験者の方からご意見を伺いたいと思います。

学校再配置問題の検討につきましては、市長がこの学校再配置問題の検討について表明されてから既に半年ほどになりますし、地域でも話題になっているかと思えます。地域でお聞きになっているお話等がございましたらご紹介いただきながら、ご意見を賜りたい

と思います。

それでは荒田委員さんから順番にお願いします。

委員

なかなか難しい問題だと思います。やっぱりどういう教育をするかということも大事ですし、例えば中学校1つ取ってみても、中学校の教育の内容を差別化するのかという辺りも視野に入れて行った方が良いのか、自分自身にクエスチョンを投げかけている所です。

それこそ、だいたい各町の意見を読ませていただいておりますと、丹後という所は地域が広いので、地図を見せてもらっても単純に人数だけでは決められないというふうに思っている所でございます。そのようなことが頭を巡っている所です。今の所はそういった現状です。

委員長

ありがとうございました。

高田委員お願いします。

委員

再配置検討委員会というのは、何を目的にしているのかということを考えてみますと、やはり合併して1つの大きな市が出来ました、その中で財政も非常に厳しい、そしてその中で学校も結構老朽化して建て直さんなんという学校もある中で、そんなら子供の教育をどうするか、そういった問題について皆さんに意見を出してもらいそれをまとめて行くということで進んで行くと思いますが、私も学校の育友会の役をさせていただいたのも随分前の話でほとんど頭の中に無い訳ですが、結構、地域的な親のエゴですとか、そういったものが邪魔をする部分もあるのかなという気持ちであります。さっきからご意見を聞かせてもらっている中で、子供は順応性があると、しかしその親については抵抗がある部分が結構あるようでして、それをどういうふうに消化して行くかなというのが我々に課せられた課題ではないかなという考え方で参加をさせていただいておりますけど、なかなか教育問題は難しいので、ちょっと言葉足らずですが私の意見とさせていただきます。

委員長

ありがとうございました。

それでは松本委員お願いします。

委員

各町の分科会の意見を聞かせていただきまして、座長さん非常に苦勞をしておられると

いうことをつくづく感じさせていただいた。と言いますのも、各分科会で自由に会員の方からのご意見をいただき、意見を徴収してそれをどうして行くのかというのがある程度1つの方向でというのが私はあって然るべきかと思っておりますけれども、まあ、それはこれから徐々に出来て行くかもしれませんけれども、最初に諮問をいただいた中にそういうのがある不十分なので、今後どうするかというのが各町でバラバラに出てきて、これをどう整合性を付けて行こうとされているのか、その辺がちょっと非常に分かりにくい、ある程度再編ありきを前提に考えていくなら考える、ということであるならばある程度出しやすいと思うのですが、今後の議論の中で、或いは教育委員会の方でどうされようとしているのかもうちよっとはっきりさせていただいたら有難いというように考えているのが今の心境でございます。

委員長

ありがとうございました。

それでは続きまして小倉委員、お願いします。

委員

統合合併が難しいというのは非常によく分かります。保育園の場合も似たような感じになっておりまして、その地域の拠点であるという物の考え方は、やはり地域の大人の人の意見、住民の意見が反映されているというふうに思います。それはやはり小学校も中学校も同じであろうと思います。地域ぐるみで今までそういった学校があって、いろいろな役割を果たしてきたということになるでしょうし、そういうふうな思いがあるからどうしても学校への捨てがたい思いがあり、意見の意味も大変よく分かります。

やはり、他にもいろいろ読ませていただきましたけれども、やはり人数というものがあがる程度いろいろな面で、全体的に水準をあまりにも下回った場合は厳しいかなと思いますし、子供の面からやっぱり焦点を当てないといけないんじゃないかなと。従っていろいろな意見があって然るべきであると思います。これは急いで結論は出ないでしょうし、出す必要もないんじゃないかなと思います。以上です。

委員長

ありがとうございました。

それでは続きまして坪倉委員、お願いします。

委員

皆さんおっしゃられておりますように、非常に難しい問題があるというふうに感じてお

ります。こないだまちづくり委員会をやったんですが、その場でも私がここの委員をやらせていただいておりますので、こういった検討会があるし現状はこうだというような話もさせていただいておりますといろんな意見が出ておりましたが、やはり1番当初にも私申し上げておったんですが、ある程度、教育委員会の進むべき道というものを、ある程度の課題はどこの分科会にしても与えなんならなかなか先へ進まない、教育長さんの言うておられることも分かる気もするです。ところが個々バラバラに1つのことを、何れにしても再配置がやりたいということですから、京丹後市としてはですよ。そうなるとやっぱりそういう方向に持って行くなれば何かテーマを与えなかったら、漠然としたことではなかなか意見も出ないし、弥栄町の場合、中学校の問題については各町1校とういうことで問題は無いが、小学校は今の所5校ある訳ですね。これを最終的に弥栄の人数から言って、まあこないだのまちづくりの中で話しが出ておるのが、まあ2校かなという話はしておるのですが、それが2校で留まるのか3校にするのか、というのはこれからの話になろうかと思いますが、その中で1点、保育所が統廃合をやってますね。ちょっと一歩先で保育所が弥栄でも2箇所ほど保育所を統合してはという話があって、今、中断しとる訳です。そうするとそういった親の方たちからの話で出ているのが、やはり小学校入学時は同じ保育所の子が行った方が良いというような意見が大半を占めている。すると保育所を統廃合するにしても難しいことも出てくるなど、そして先ほども話がありましたが、財政が非常に厳しい中で、新築はしない、現在ある校舎で増改築によって統廃合をやって行きたいというのが基本的な考え方のようなので、それは保育所も一緒なんです。ですから非常にその辺が難しいというふうに考えておりますが、今後これらについては、だんだんだんだん育友会の方、それから子供を持っておられる親の人たちがだんだん関心をこのことには持って来られると思うので、もっともっと一般の人から話が出てくると思います。それらを聞きながら弥栄から出ていただいております方、分科会の中へも最終段階ではいろいろと話を伺いに行かせてもらったり意見を聞いて話を進めていかなんと、他町の動向も見ながら弥栄としては進めて行ったらというようなことを今感じている所です。

委員長

ありがとうございました。

それでは続きまして、板垣委員をお願いします。

委員

この年になって学校の問題を考えんなんなんて大変難しいと思っています、孫の時代で

すから。それをもう1回自分が若い時の気持ちになってどうして行くかなと思ひながら、基本的には京丹後市の教育というのはかくあるべきだということを考え、その上で今どこの観点から進めて行くべきか、児童数だけで物を見るのか、生徒数だけで、社会集団として、生活集団としてどうしたら良いのか、その上に学力や人間形成や情緒等加えるとなるとどっから行ったら、どこでその道先というのが決まるのか。ただ児童・生徒数だけで行ったら簡単に出来る、簡単ではありませんけれども結論が見出しやすい、けれどもそうはいかんと、社会集団としてとか考えるとどうして行ったら良いかと今、思っている所でございます。

今まで聞かせていただいた中で、1つだけこないだのレポートを読ませていただいていた中で気付いたのは、今言われてましたけれども新築改築ではなくて、既存の校舎を活用して行くという再配置を検討する上での基本的な考え方、というのが当てはまるなというのが沢山あって、まず基本的な所を論議をしてもらうのが必要ではないかなというふうに皆さんの意見の中で思いました。

年代が違いますもんで、なかなか学校の統廃合についての話の仕方と言いますか、難しいと思いますが、やっぱり若い人たちの意見をまとめるのはどこをどうやって行ったら良いのか悩んでおりますが、正直、大変難しいなというのが実感です。

委員長

ありがとうございました。

それではこれから論議に入って行きたいと思ひますので、皆さんのご意見をいただきたいと思ひますが、その際に事務局として少しお答えをいただいております方が良い中身が出たように思ひますので、事務局いかがでしょうか。

教育長

叱られるかも知れませんが、今までこういう会議の場で検討していただくという所へ行き着く所で委員さんからご指摘がありましたので、考えの大枠について、やはり市の教育がどうあるべきかということなんですが、その観点からすると基本的には旧町域を超えるというような合併は好ましくない、ということが基本にあります。地域性ということもありますし、今、学校は地域の教育力を借りるという所がなければとても成り立たん時代ですから、そこを超えることはいかかなものか、旧町域を割ることはしないということが基本にあると思ひております。

もっと言いますと、行政区を割ってAとBの学校に分かれて行くというのは、これもや

やはり好ましいことではないのではないかという思いがあります。そういった辺りで考えて行くのが1番ではないかという思いを持っております。あんまり細かい辺りには触れておりませんが、しかし、この2つだけのことを考えても前回は申し上げたと思いますが、ねじれを起こしております所がありますので、そのねじれをどうするかという問題もいろいろ意見を出していただいています。この際、戻すべきだという意見もいただいております。そういったことも含めて私どもは地域というものを大事にした学校づくりということを考えておるのが基本です。

それからある程度、やっぱり学校という課程においては、集団ということを考えれば、どの程度の規模が良いのかということも、これもいろいろご意見のある所だと思いますので、その辺は皆さんのご意見をいただいたら良いというふうに思っていますが、ただ流れとしてですね、すぐには出てきませんが文科省の考えておるのは学校選択制ということを考えている訳です。いわゆる学校の通学区域というのを解いてしまおうと言うのが考え方として見えている訳です。それが出てきた時に、京丹後市は耐えられるかどうかなんですよ。例えば30人の学校もいいんです。30人の学校から6人が違う学校に行きたいと言われたらそれはどうするのか、見事にその学校は崩壊してしまうというような、そんな場面を作っているのか。例えば10年、20年先のことを考えたら当然、その辺りを視野に入れた検討をして行くべきだというふうに思っております。

やはりそういうことに捕われるのはどうかと思いますが、そういうものも行くらか視野に入れとかんなんと思えます。学校選択制は、今は本当は第3次の教育再生会議の答申が出てきますけれども、その中で出て来るかも知れません。けれど地域がある程度判断出来ますので、現段階では京丹後市はその制度を取り入れようとは思いませんけれども、流れとしてはそういうことになっておるということで、今までは通学区域も定めておりましたけれども、通学区域の弾力化ということとはどんどん進めて行かなければならないことですので、そういった場合に耐えられる学校の組織というものをある程度はキープしておかなければあかんのではないかということが基本にはあるということなんです。

再配置いうたら、金が無いですぐに合併だ、統合だという観点だけでやっている訳ではありませんので、まちづくりという視点と学校のあり方と言う部分も含めて考えて行かなあかんと思っておりますので、既存の施設を使うということは財政的な面を考慮した点であります。その点ははっきりそういう考えで行くべきではないか、いやいやそれがあかんということであれば、それが建てられるような財政力がつくまではそこは足踏みしとらん



なんというようなことになってくるかも分かりませんし、そういうことも含めた上で、今後の道が出てくるのではないかということです。検討委員会からいただいた意見から教育委員会が原案を立てる段階では、今、申しあげましたような事柄がうまく意見として出てくるのかどうかというようなことを見計らいながら、基本的な考え方にしていかなんのではないかなというふうに思っております。

教育次長

先ほどのご報告、委員さんのご発言の中で、検討委員会なり分科会での検討の方向性といったものがないとやりにくいのではないかといったご意見があったと思うんですが、そのことにつきましては、7月12日初回に私の方からちょっと早口で申しあげましたけど、趣旨説明という中で、今回再配置をご検討いただく上での基本的な諸条件、考え方ということで、実は随分沢山の制約みたいなものですが、どうしてもこういったことにはこういった枠で是非お考えいただけないだろうかという形で数点のことをお示しをしております。実はそのことに非常に厚かましいほどの条件を示させていただいておまして、それと共にいろんな資料を提供させていただいておまして、そういった物を見ていただいた中で、検討いただく方向というのはある程度かなり制約されてくるのではないかというふうに考えておりますし、1点、人口減少、過疎化が大変急速に京丹後市で進んでおまして、平成16年4月1日で65,000人という触れ込みで出発、スタートしておりますけれどもこの3年半の間に人口は2,000人ほど減少しております。1年平均で700人ほどが減少している状況があります。このまま過疎が続くのかどこまで続くのか、どこかで低め止まりして一定の所で安定するのかどうかちょっと見えませんが、追加でお示しました最近3年間の市域全体の各町域別の出生数をご覧いただきましても、大変少ない出生数になっておまして、幾つかの町では30人といたふうな規模の町全体での出生数といった状況にもなってきておりますので、いろんな今回再配置を考えていただく上での1つの大きなキーポイントは児童・生徒数の動向、現状と推移の動向といったことがあるのではないかというふうに考えております。

委員長

ありがとうございました。

これからいろいろと皆さんの意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いします。

いかがでしょうか。

## 委員

教育長さんにお尋ねしますが、小学校6年までと中学校3年までは義務教育ですが、昔はそうではなかったですね。今義務教育で3年間あるためにものすごく子供の程度が低くなってると思うのですが、昔から比べると、その辺は国としてどのような感じなんですか。

## 教育長

ご承知かと思いますが、教育再生会議が今、第2次の報告まで終わっておりまして、12月が目途で進んでおりますが、ちょっと内閣がややこしいことになっておりまして飛んでしまうかも分かりませんが、第3次に残っている問題が3つあるのですが、学校選択制とバウチャー制というのがありますが、まあ切符みたいな物であっちこっちが利用出来る。もう1つは6・3・3制の検討というのがありまして、5・4制にしてはどうか、という意見もありましていろいろあります。そういうことを文科省は言ってますけれども、皆火の粉が落ちるのは市町村でありまして、学校の義務教育を5・4制にされたら学校をすぐ触らんなんことが起きてきますのでそう簡単には号令をかけられてもお金と一緒に引っ付けてもらわんと出来ないでと、懐からいうとそうなっちゃう訳です。

そういう基本的な部分を今触られようとしていますので、どういう流れになるか分かりません。基本的にはその3つが難しかったので残っちゃって第二次終わりだと、なかなか進まなかったのでもしくは消えて行くかも知れませんが、何ぼかまとまって行くかもしれません。けれども中央教育審議会がありますから、再生会議で決められてもそっくりそのままずぼっと行くというものではありませんので、まだまだ時間がかかるとは思いますけれども、義務教育の基本に関わる問題も今後議論をされるだろうというふうに思っております。現状では流れとしてそんなふうで致し方ないんじゃないのかな。

学期制も必ず今動いてきます。3学期制度も、今2学期制の学校がどんどん増えてきていますので、良し悪しは別としてそういう流れも1つあるという状況です。

## 委員長

他にありませんでしょうか。

## 委員

分科会で出たのは、財政の面で大変だけど将来の京丹後市の子供たちの未来の為に投資するのは当然であって、金が無いから厳しいから、じゃあ統廃合だとか抑えなくちゃいけないとか、この議論というのはどうなんかな。やはり日本を支え、国を支える将来のある

子ども達に、金が無いから苦しいからという大人の目線でやっちゃうのはどうなのかなというの各委員さんからの意見で出ていました。確かに地域の活性化の為に投資するべき所は投資して、地域力の部分も含めて考えていかなん面があるんじゃないかなと、防災上のことやら、いろいろな災害が起きたときの拠点になったり、ある部分がなくなればじゃあ何処に行けば良いのか、という話やいろんな総合的な子ども達の部分ではあるんだけど、そういう総合的な京丹後市のあるべき姿を簡単に統廃合ありきではやっぱり図れないんじゃないかなと思っている所です。やはり将来のためには何とか今ここで親が踏ん張ってやらないといけないのかなと思っています。以上です。

委員長

ありがとうございました。

私も少し思うのが、再配置で各地域の拠点施設として避難施設になっているとか、その分野は再配置とは別にしてリカバリーをされるという意味はあるんですか。それをされないと地域力が大事だと言いながら、学校なくしちゃって、拠点なくしちゃって、避難も出来ないわ、地域でまとまって集まるといっても拠点施設が無いと、この辺のジレンマというか意見があったように、お金もまあ勿論考えなければならん立場ではあるかと思いますが、やっぱり京丹後でどんな教育をするかというのが1番で、やっぱり基本的に重要だという中で、行財政も意識の中で持っておっていただかないと無い袖は振れないということもありますので、その辺がちょっと気になる所です。

他にございませんか。

それぞれ分科会でご苦労されておりますので、この際、こんなことを疑問に思っているんだというようなことも、遠慮せずどしどしお出し下さい。

委員

分科会の持ち方についてですが、どれくらいの期間をおいてやったら良いのかというのが、この検討委員会が何回か終わってから持たれるということを考えたら、ある程度分科会で同じような感じでやって行かないと、早くやっても委員会があるまでに何回もやっているということで、この委員会もどれくらいでやるのかということがないみたいですし、分科会は3ヶ月か4ヶ月に1回でいいのか、全部自由ですと言われたのですが、ちょっとその辺が何にも不明確なので結果、分科会で何時しましょうかと言う時に、自由ですと言っても、では何時しましょうかということになるのでちょっとやりにく行かなと思っています。

## 教育次長

実は4番目の議事の中で諮っていただこうと思っていたのですが、7月から分科会での検討をスタートしていただきまして、この年末までくらい分です、中間まとめみたいな各分科会ごとにそれをお願いさせていただこうかというのが次の議題になっておりますし、この検討委員会もそれに関連しまして、中間報告の全部の分を取りまとめまして、2月くらいに次の検討委員会を開かせてもらったらどうかということをお大卒で考えております。

## 委員

皆さんからご意見が出てたと思うんですが、あまりにも漠然としすぎておる中で、やっぱり基本的な考えは人数を考えるのか、教育の内容を考えるのかという辺りが1番大きな課題の1つではないかというふうにちょっと思いますね。

だから上からの学校選択制等の問題が起こってきたり、そのバウチャー制度的な問題が起こってきた時に、京丹後市としてはどういう方向に行くというような明確な意見があるのかどうか、それもまたこの中で意見を聞いて行くのかという辺りもどう考えて行ったら良いのかなと自分自身に問いかけているんですけど、やっぱり先ほど言われたように、教育の内容というようなことを考えて行くと人数が減ればこうだというふうにはいかんでしょうし、ちょっとその辺が漠然としすぎていて、どこから考えて行ったら良いのか何にもちょっと、検討分科会にしるこの検討委員会にしても何か大きすぎるんではないかと思っています。

## 教育長

考え方としては、京丹後市の教育のあり方ということについては分る訳ですけども、6つ同じような形でというのは望めないと思うんですね。地域の広さもありますし、人口規模のばらつきもありますから、既に再配置をされた大宮のような地域もあれば、そうでない所もありますから、ただそういう辺りがばらつきがあって然るべきだというふうに思っておりますので、先ほどから出ておるように久美浜は久美浜の教育として、どれくらいの規模で学校をどうしたら良いかという辺りの意見がまとめてもらえたら有難いということであって、それをこの検討委員会で6町分をバランスを考えながら見ていただく、バランスというのは数のバランスでなしに地域性を出していただけるような形の学校規模をそれぞれで考えてもらったら良いというふうに思っている所でございます。

だから生徒の数できちっと割り出して見てという、数字で動かして行くようなことは今

の所考えてはおりません。中にはやっぱりこの数で行きたいという小規模校があるのなら、それはそれで大事にしても良いというふうに思っています。ですからそこら辺も含めて私はこの弥栄の意見を紹介してもらった中にもありましたけれども、そういうことで固執される所があってもそれはそれで良いのではないかなと私は思っています。皆さんの中でそれはそれで良からうということであればそれを 1 つの骨にしてまとめさせていただいて、計画案作りをさせていただくということになります。

委員

分科会ではいろんな意見が出ている訳ですけども、意見を集約してそれを検討委員会に出して、最終的にはそれを案にして教育委員会でああだとか、こうだとか考えられる訳ですね。

教育長

ここへ出していただく。

委員

丹後の方は丹後で集約して、この学校は残すとかこの学校はやめるとか、ということは最終的にはこの会議で決めるんですか。

教育長

この会議で決めます。

委員

この会議でそれを決めて、そして京丹後市に答申として出して行くんですね。

副委員長

まだ上に 2 つあります。教育委員会もありますし、議会もあります。

委員

こうやってやることによって、峰山なんかでもそうだったんですが、適正配置という難しい問題もありますけれども、適正配置を地域の中で考えるとねじれ現象だとか、各地域の峰小と丹波小の地域のねじれ現象も各地域の意見をいただいて、こういう場があったからこそそういうことの認識というものも持ってもらうことが出来る。或いは今後そうだったらどうなのかなというきっかけにもなると思いますので、そういった辺りの認識もやっぱり必要かなと、そういう所から始まって行ってそれぞれの地域の内容、状況について、スクールバスならどうだろう、こうだろうという話も出ていましたし、やっぱりその辺りで、峰山の地域としてどれが 1 番いいのか、ここの人に取っていいのか、或いは学校全体

のことを地域に取ってどれが1番いいのかということ、いろいろな問題はあるが別にして、地域の特性の地域を割らない、これを今後どうしたらいいのかというのが1番切迫したこととしてあり、人数が少ない中でやる、或いは同じ地域でも行政区が違い、この際このことについて考えてみようじゃないかと、それはそれで意味があるのかなと、また地域に帰って考えていただくかなと思っております。

委員長

その他、ありませんか。

次に、(4)の「第1回中間報告について」を議題とさせていただきます。

京丹後市学校再配置検討委員会及び検討分科会設置要綱第2条第2項により、「分科会は、設置地域における小学校及び中学校の再配置に関する事項について検討し、委員会に報告するものとする。」とあります。

この際、当初から年末までに開催される各分科会の検討状況について、第1回中間報告の位置付けで、報告書の提出をお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。ご意見を伺いたいと思います。

今、次長の方からお話があったようなことについて、意見があったらお願いします。

教育次長

今、委員長さんから7月12日スタートでこの検討分科会を進めていただいておりますけれども、あと年末までに3ヶ月とちょっとありますけれども、今年の当初から12月末までに各分科会が開かれます、そこで出される意見を一旦まとめていただきまして、来年の1月末ぐらいまでにこの委員会にご報告いただけないだろうかというふうに思っております、それを一旦事務局の方で取りまとめをさせていただいた上で、次のこの検討委員会も開かせていただいたらというふうに思っております。

委員長

いかがでしょうか。

副委員長

次長、これは事務局も含めてということですね。

教育次長

はい、取りまとめにつきましては座長さん、副座長さんを中心にそれぞれ事務方が付いておりますので、年末までにいろいろ出されましたご意見をいろんな観点から整理をさせていただいた上で、取りまとめ作業をというふうに考えております。

委員長

各分科会の座長さん、取りまとめの日程についてこのスケジュールでよろしいでしょうか。

じゃあ、このスケジュールでよろしくお願い致します。

それでは、本日の議事につきましては全てを終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

教育次長

それでは、大変熱心にご協議いただきましてありがとうございました。次にその他ということで先ほども少し触れましたけれども、次回のこの検討委員会の開催日時につきまして、出来ましたらこの場でご確認がいただけたらと思いますが、高野委員長いかがでしょうか。

委員長

はい、それでは次回の第3回の検討委員会ですが、先ほどの12月開催までの分科会の開催状況を第1回中間報告書として翌年1月に報告をいただくことを決めていただきましたので、これを受けまして開催するということが皆さんいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。第3回の検討委員会につきましては2月の中旬ぐらいにというふうに思っているのですが、出来れば2月の15日ぐらいに思っているのですが、もしも困るという方がおられたらお願いします。

皆さん忙しい方でございますので、早めに決めさせていただくということで、よろしいでしょうか。

それでは第3回は2月15日金曜日ということで、時間につきましてはこの時間でよろしくお願ひしたいと思いますが、この時期ちょっと雪があるかもしれませんが、いかがでしょうか。

委員

2月の8時といたらちょっと遅いんじゃないでしょうか。

委員長

ちょっと気になってはおったんです、1番寒い時ですから、皆さんが問題ないようでしたら7時30分にさせていただきたいというふうに思いますけど、深々と雪が降って、丹後町とか帰るのも大変ですし、まあ次回については事務局の方で出来るだけ早い時間に開催するというので、時間についてはまた事務局の方で通知を出させていただくというこ

とでよろしく申し上げます。

教育次長

それでは、長時間に渡りましてありがとうございました。これで第2回検討委員会を終了させていただきたいと思います。

閉会にあたりまして、大木副委員長様よろしくお願い致します。

副委員長

第2回の検討委員会ということで、皆さん非常にお忙しい中をお集まりいただきまして、熱心に討議をしていただきました。また分科会の座長の皆様方におかれましては、大変お忙しい中を精力的に分科会を開いていただいております、本当に有難いと思っております。分科会でいろんな意見をおっしゃっていると思いますが、合併ありきと、配置をこうせんなんという話ではございません。皆さん方からいただいた意見を今後どうやって行くか、これから徐々にテーマを絞っていかないと、先ほども人数だとか地域性だとかテーマを絞っていただいて、いよいよ12月に向けて整理をする機会というものを設けていただきたいというふうに思っております。

先ほど皆さんの意見にもありましたが、災害ということからしますと、台風23号の時に河梨峠を越えました中ンタ二という集落がありまして、ここです、あそこも学校が合併になりまして、学校を平地に持ってきまして実は学校が浸かったということで、本当にどこへ持って行って、それがどうなっていくかということについてですね、本当にその設置場所についても本当に難しい問題であろうと、そういうことも含めてですね、平地が良いのか山の上が良いのか、いろいろあると思いますけれども、皆さん方のいろんな意見をですね、取りあえず出していただいて、ただ意見を出すというんじゃなしに、それを1つの座長さんの形の中である程度集約して、テーマをある程度絞っていただきたいということがお願いでございますので、是非とも12月に向けてそういう会議をしていただきますようお願いを致しまして、閉会のご挨拶とさせていただきます。どうも大変ご苦労様でした。ありがとうございました。

次回開催日 平成20年2月15日(金)午後7時30分～(予定)

京丹後市役所 峰山庁舎 2階 201.202.203 会議室